

第4回福山駅前再生協議会を開催しました！

日時：2017年(平成29年)11月28日(火曜日) 15:00～
 場所：福山市役所3階 大会議室

今回は、これまでの議論を踏まえて作成した(仮称)福山駅前再生ビジョン(素案骨子)について意見交換を行いました。



◆敷地に価値なし、エリアに価値あり

- 民間の企業の方にお問い合わせがある。それは、みんなで価値のある福山駅周辺をつくっていきましょう、ということ。不動産の価値はエリアにしかつかない。単体の敷地だけで事業が成り立てばいいと考えないでほしい。これがビジョンで掲げることの意義である。
- 質の高い民間の投資が集積すれば、福山駅周辺がよくなることは確実である。



清水義次座長

◆人と人をつなぐ“関係案内所”

- 関係人口をもっと増やす必要がある。
- 離れていても、福山のために力になってくれるという人口を増やしていくことが大切だと思う。
- アイデアを持ち込んだ人にとって、行政なり関係者につないでくれるような安心感のある場所であれば、新しいことと日常がつながって、まちが新陳代謝していくのではないかと。



石川貴志委員

◆にぎわい創出に市民の力は不可欠

- 民間や公共の不動産を活用してもにぎわいが回復しないからどうすればいいのかというところが問題である。ここはたぶん市民の方の協力なくしては無理だと私は思う。
- 主なターゲットが観光客とビジネスパーソンとなっているが、にぎわいの創出には市民が欠かせないので、ここには是非とも「市民」を大きく入れるべきだと思う。



渡邊一成委員

◆今ある駅前の空間をもっとうまく活用できないか

- 福山駅前の西側エリアはパーキングが多い。これらは集約化していてもいいのではないかと思う。あれだけのエリアの使い方はもっと他にもあるのではないかと。
- 市役所エリアでいうと、南側の広場は使ったことがない。国道を走っていると夏には気持ちよさそうに見えるが、あそこを何か活用する方法はないかと思う。



前田圭介委員

◆市民のみなさんを巻き込んだまちづくり

- 市民参画の重要性があがっている。実例として、先月の社会実験では、準備段階から、市立大学の学生や先生などに参加してもらった。
- 福山には志を持った人や企業がたくさんいる。行政と連携しながら取り組んでいけば、市民のみなさんも巻き込んだまちづくりは可能であると感じた。



福山商工会議所

◆どうすれば市民が乗ってきれるか

- このビジョンをみて住民がわくわくするように表現していくことが難しい。
- これまでも福山にまちづくりのプロの人たちが来て、住民といろいろなことに取り組んできたが、継続していない。住民をどう乗せるかということが難しい。
- 福山にインパクトを与える種みたいなものが欲しい。



奥山健二委員

◆駅前のコンシェルジュ機能

- 駅前の見えやすいところにコンシェルジュ機能が必要だという話があった。興味を持っている人たちの受け皿みたいなものが、分かりやすい場所にもっとあると目立つし、それが駅前のイメージとともにうまく共存できたらいいと思う。
- ただのコンシェルジュ機能や案内所というよりは、営業的なセンスを持った人や若い学生さんなどにも関わってもらって、駅前を盛り上げてもらいたいと思う。



久田教枝委員

◆もっとシンプルに、必要な機能は何か

- 機能がまんべんなくある印象を受けるし、果たしてこんなに機能があるのかと思う。
- 少し偏りが出るかもしれないが、もっとシンプルに、本当に必要なものは何か、ということを考えていったほうがいいのではないかと。



ディスカバーリンクせとうち

◆ファイナンスによるまちづくりの支援

- 行政はファイナンスでの支援に切り替えていくということに積極的になるのがいいのではないかと。
- 補助金に代わるファイナンスメニューみたいなものを駅前再生やリノベーションをしていくときにオーナーや家守事業者、起業するビジネスオーナーなどに対して、使い勝手のよいものを用意するといいいのではないかと。



嶋田洋平さん(アドバイザー)

◆行政は事業者と市民、それぞれの連携が必要

- 地主と行政の連携と、事業者と行政の連携はまた少し違ってくる。私がやったやり方は、民間と行政の橋渡し役の組織を行政につくってもらった。
- 市民のかかわり方は大事になる。市民が責任を持って参加するという土壌を行政の方が一緒につくっていくことが必要になる。



岡崎正徳さん(アドバイザー)



他にもこのような意見がありました

- 一定の雇用数を作り出すということは東部地域における人口のダム機能を果たしてもらって観点から大切だと思う。
- 県としても東部地域全体、圏域全体の発展につながるのだと思っている。積極的に関与して一緒に考えていきたい。【広島県】
- リノベーションとして考えたとき、利用される方なのか、家守なのか、あるいは地権者の方なのか、その対象によって必要な資金の内容はずいぶん違ってくる。必要な資金に対応できるように今まさに検討している。【株式会社広島銀行】
- まちづくりのプロセスで3年後、10年後、20年後となっている。もう少し短期化できればファイナンスも組みやすいかと思う。
- それからファイナンスのほうで、例えば、利子補給などの制度が市と組み合わせができることになれば、より有利な条件でファイナンスが検討できるのではないかと。【株式会社中国銀行】
- 本気でやるには、行政内部の部署間連携がものすごく大事になるということだ。行政がこう変わっていくということを市民の方に見せていってほしいと思う。【清水義次座長】